



「金木町に金木さんが来る」

4月にオープンした斜陽館は、連日大勢の観光客が訪れ、瞬間に5万人を突破。記念すべき5万人目の方は、なんと町名と同じ金木（かなぎ）さん。（8月8日）



「河口湖町から文化使節団」

友好都市交流として河口湖町から小・中学生ら8人が当町を訪問。有意義な夏休みを過ごす。目には見えない“赤い糸”を太宰が結び付けてくれた。（8月2、3日）



「喜良市小学校が120周年」
 地域の人々に愛され、こつこつと積み重ねた歲月も120年を迎えた。記念式典では器楽演奏を披露し、一層の発展を誓った。（10月25日）

1998年 PLAY BACK!



「最後の桜桃忌」

「撰ばれてあることの／恍惚と不安と／二つわれにあり」、作品『葉』の冒頭の一節。昨年で、節目の50回を数えた桜桃忌。今年は太宰生誕90周年。（6月19日）



「走れメロス」の合唱曲が流れる中、白い菊を手にした参列者が碑に献花。



「原田憶さん内閣総理大臣賞決定」
 戦後からリング作りに従事し、混乱期にも情熱を失わず黙々と汗を流す。その道の第一人者となり「原田ブランド」を確立。（10月23日）

まちからびきり

▲鳴海町長が米谷さんに
勲記を手渡す



米谷甚九郎さん

高齢者叙勲

元町議会議員の米谷甚九郎さん（喜良市上派立）がこのほど、地方自治の振興に貢献した功績で高齢者叙勲を受けました。

米谷さんは昭和二十二年、旧喜良市村議会議員に初当選以来、同三十年の町村合併も含め同四十三年まで連続六期二十余年の間、町村議会議員

として農業をはじめ、教育、福祉などの向上に尽くしてきました。

十一月に八十八歳の米寿を迎えたことで高齢者叙勲に選ばれた米谷さんは、足のケガで歩行に多少の困難を来しているものの元氣いっぱい、叙勲に対しては「榮譽に恥じないよう今後も頑張りたい。

また、金木町も町長と議会が一緒に手を携え、一層頑張っていってほしい」と、喜びをかみしめながら胸中を語ってくれました。

▲表彰状を手に受賞を喜ぶ
佐藤さん



佐藤良治さん

労働大臣表彰

対する功績で、建築業を営む佐藤良治さん（三軒町）がこのほど、労働大臣表彰を受けました。

佐藤さんは本業の傍ら、昭和三十九年から金木職業訓練協会の理事として、また豊富な経験と知識を生かし木造建

築科の講師となり技術取得に訪れる訓練生を指導してきました。現在も同協会の会長として活躍しています。

受賞に対し「先輩たちから教わった『技』を若い人たちに伝えたい。これからも初心に返って頑張りたい」と話していました。佐藤さんはこれまでも、県知事表彰や中央職業能力開発協会感謝状などを受けています。

金木高生が

お年寄りに年賀状

金木高校（校長 岩見幸夫）の全校生徒二百五十人が十二月十七日、町内に住む独り暮らしのお年寄りに、年賀状を送りました。

要望にこたえ、JRC部が中心となり、生徒の発案で昨年全校生徒が一人一枚の割り当てで年賀状作成に取り組みました。

県のボランティア推進校に指定されている同校は、活動の一環として町内の老人施設などの慰問をこれまで行ってきました。ただ、もっと広範囲で活動したいという生徒の

あらかじめ印刷されているハガキに、一人ひとりが直筆で住所・氏名、そして「風邪をひかないように体に気を付けてください」などと思いにメッセージを書き添えました。



▲メッセージを書き込む女子生徒

部長の秋元希公さん（三年）は「家族がいない独り暮らしの人もいるので、私たちの年賀状で元氣を出してくれればうれいす」と話していました。正月明けには、生徒らの気持ちに感謝するお札の年賀状が同校に数多く届けられました。

平成十年度職業訓練行政に

厄を払い良い年に！

今年、大厄を迎える男女が



▲神妙な面持ちで厄を払う参加者

一月四日、中央公民館で「合同厄払い」を行い、一年間の降りかかる厄難を払い落としました。
厄年は、数え年で男性が二十五歳・四十二歳・六十歳、女性は十九歳・三十三歳となりますが、特に大厄に当たる男性四十二歳と女性三十三歳は、人生の中で最も災いに遭う恐れが多いことから言動を慎むようにとされています。

今年、昭和三十三年四月二日から昭和三十四年四月一日生まれの男性と昭和四十二年四月二日から昭和四十三年四月一日生まれまでの女性が対象で、合わせて九十二人が参加しました。
式では、おはらいを受けた後、一人ひとりの名前が記された祝詞を神主が奉し、代表者が玉串を奉典して厳粛な中、神事が行われました。式後、祝宴に入り、斉藤和博実行委員代表があいさつ。来賓として出席した鳴海町長が「人生の中で充実した年代である皆さんの今後の活躍を祈っています」と激励しました。

新春の町に

アルバイト生ら年賀状配達



▲各家庭に年賀状を届けるアルバイト生

年賀状配達の出発式が一月一日、金木郵便局（局長 長内良毅）で行われ、高校生や専門学校生のアルバイトと職員ら二十人が出席しました。
はじめに、長内局長が「町民の皆さんが年賀状を心待ちにしています。間違えないように使命感を持って配達してください」と激励。ジュースで乾杯した後、新年の町に自

転車や徒歩で便りを届けに出発しました。
あいにくの空模様この日、時折吹く強風と吹雪に悪戦苦闘しながら各家庭を回って行きました。今年初めてアルバイトした金木高三年の佐野仁美さんは「雨の日や吹雪の日は大変だけど、皆さんが待っていると思うと頑張れる」と話し、笑顔で年賀状を配達していました。
金木町内では元日だけで約十九万通、期間中に約二十二万通が配達されました。

金木病院

入院患者らに

クリスマスプレゼント

金木小吹奏楽部

クリスマスイブの十二月二十四日、金木小学校（校長 蝦名昭逸）の吹奏楽部二十一人が金木病院を訪れ、慰問演奏会を開きました。

同病院の総婦長である工藤アサさんが「入院患者のサービスのために」と演奏会を考案し、同小に一カ月前に依頼。同小では「演奏発表会のよい練習になる」と快く承諾

しました。
子供らは、依頼を受けてから放課後の時間を利用して練習に励んできました。病院側でも、院内にポスターを掲示したり、回診の際に入院患者に伝言したりして初めての試みに力を入れていました。

この日の午後、受付ロビーが演奏会場に様変わりし、受診に訪れた人や入院患者らで埋め尽くされる中、ベレー帽をかぶり正装した子供らが拍手に迎えられ登場。クラシック音楽やクリスマスソングを次々とメドレーで演奏し、聴衆の喝さいを浴びていました。そして、ラストソングを終えて余韻にひたる会場から期せずして「アンコール」の大合唱が沸き起こり、子供たちはアンコールにこたえていました。



▲心温まる歌や演奏を披露してくれた子供たち

HAPPY Wedding

♥ かなぎ公民館

ブライダル ♥



1998. 11. 22

新郎 泉谷 司 さん(金 木)
新婦 山中 雅代 さん(嘉 瀬)

1999. 1. 3

新郎 大橋 一仁 さん(金 木)
新婦 白川 瑞子 さん(金 木)

このほど、めでたく「かなぎ公民館ブライダル」(企画・進行＝事務局「金木町中央公民館」)によりカップルとなられた方々をご紹介します。

★ご結婚をご予定されている方は、お気軽に金木町中央公民館にご相談ください。すべて事務局が手配いたします。
(☎53-3581)
また、お二人のお名前と結婚記念日を刺しゅうした豪華桐箱入アルバムの記念品等々たくさんの特典があります。

第13集 発刊



ふるさとのかたりべ

- ◆さまざまな角度から郷土の歴史を研究し、後世に語り継いでいこうとその文献を編集・発行している嘉瀬ふるさとを探る会でこのほど、かたりべ第13集が発刊されました。
- ◆B5版 全81ページ
- ◆内 容 小田川去来、嘉瀬今昔追憶の記、金木町歴史探訪、嘉瀬郷倉事件、私の体験記・この世で地獄を見たなど
- ◆問い合わせ先 木村治利さん ☎52-2811



こくめん
ねんきん

**国民年金の保険料は
社会保険料控除の対象になります**

確定申告の時期が近づいてきました。

平成十年一月から十二月までの間に納められた保険料は、「社会保険料控除」として金額が所得から控除されます。

申告できるのは、平成十年分の保険料だけでなく、過去に未納になっていた保険料を納めた場合など、平成十年中に納めた全部の額です。

世帯主の保険料だけでなく、家族の分として納めた保険料も控除の対象になりますので、忘れないようにしてください。

☆平成十年の保険料額

定額保険料

一月～三月

月額

一、二、八〇〇円

四月～十二月

月額

一三、三〇〇円

付加保険料

月額 四〇〇円

太宰をしのぶ ⑨ 『魚服記』の舞台

金木町太宰会々長
木下 巽

『魚服記』は、太宰さん二十五歳の昭和八年三月、「海豹」創刊号に掲載され、大きな反響を呼んだ初期の短編小説です。故郷津軽の自然や伝説が背景になっています。

その梗概は、「馬禿山の裏側に十丈ちかくの滝が落ちて

いる。十五歳の娘スワは、その滝の傍にある炭小屋に父親と二人で寝起きしている。し

んしんと寒い静かな晩、スワが眠っていると、山人の来訪初雪の舞い込む夢幻的雰囲気

うとうとうとしていると突然体に疼痛、次いで父の酒くさい息を感じた。スワは降りしきる雪の中を滝に向かって歩き

「おど！」と低く言って投身した。気がつくとき小さな鮎に変身していたが、やがて滝壺に

にむかっていって、たちまちくるくると木の葉のように吸いこまれた」と、民話風な語り口で書かれています。

原稿用紙およそ十八枚という短い作品ですが、内容が豊富で、種々の問題を内包し、完成度の高い珠玉の好編と言

われています。フィクションであることを承知しながらも、今回はその舞台と地名について詮索してみます。

書き出しは、「本州の北端の山脈は、ほんじゆ山脈といふのである。せいぜい三四百米ほどの丘陵が起伏してゐるのであるから、ふつうの地図



▲作品『魚服記』の舞台とされる滝の滝。後方にある上段を雄滝と呼んで、前方に雌滝と呼んでいる。

がそびえています。ふつうの青森県地図には載っています。が、それを「ほんじゆ山脈」と平仮名まじりで書くことによって、いかにも現実離れした民話風の雰囲気を思わせるところに、太宰さんの周到な計算が伺われます。

続いて「むかし、このへん

には載ってゐない。：」とあり、いかにも架空の地名のようには思われます。「ほんじゆ」のやまなみは、津軽山地の南部にあり、梵珠山(四六八m)馬ノ神山(五四九m)などが連なり、北部では金木町東端に位置する大倉岳(六七七m)

一带はひろびろとした海であったさうで、義経が家来たちを連れて北へ北へと亡命して行って：(略)そのとき、彼等の船が此の山脈へ衝突した。突きあつた跡がいまでも残つてゐる。(略)約一畝歩ぐらゐの赤土の崖がそれなのであ

った。小山は馬禿山と呼ばれてゐる。」と描かれています。まず「むかし、このへん一帯はひろびろとした海であつたさうで：」ですが、これは津軽平野と岩木川、そして十三湯のなりたちに関係があります。東日流外三郡誌に「東日流六郡内外は古く遠浅なる入海にして：」という文から、これより以前の大昔の津軽平野は一円の大湖水(古十三湯)であつたことを物語っています。そこに、伝説的主人公の源義経を登場させ、船が衝突した小山が馬禿山であるというのです。

ここで問題なのは、太宰治研究で有名な相馬先生は「評伝太宰治」の著書に、作品の馬禿山のモデルは大釈迦側にある馬神山であると記述していることです。その馬神山の中腹の斜面に、馬の跳びはねているような形にえぐられているのが眺望できるといわれています。その形から土地の人たちは馬影山とか、馬禿山とも呼んでいるという説です。

このことについて、県立自然ふれあいセンター職員で、梵珠山地に詳しい後藤伸三さんに確かめましたところ、

「『馬ノ神山』は『魔ノ神山』という記録はありますが、山の斜面が大きくえぐられてい

る部分はありません。また馬禿山と呼んだこともありませ

ん。」ということでした。

さらに金木菅林署に照会してみました。同様の答えでした。正確には「喜良市山国有林四十四林班の口小班」が馬禿山だということです。今さら詮索する必要もないのですが、山のモデルは太宰さんが幼いころから見慣れた、町の東側に「ハ」の形に見える小山「馬禿山」しかないということになります。気をつけて見ますと、太宰さんが描いているように馬の姿にも、老人の横顔にも似ています。

また『魚服記』の舞台である滝のモデルは、場所的には「鹿の子滝」でありますが、滝の描写と規模においては「藤の滝」が作品のイメージにぴったりしています。

最後に、へ：子鮎に変身したスワが：滝壺へ：くるくると木の葉のやうに吸い込まれたのは、スワの新しい誕生再生を祈つてのことではないかと思うのです……。

金木病院カルテ 154

金木病院の今年

院長 伊藤 恭雄

最近「自治体病院の再編成」という言葉が見られます。道路網が発達し自動車の普及が著しい今日、車ですぐの隣り合った町々に同じような病院があるのは、人的、物理的に無駄なので調整しようという考えです。合理的な考えと思われます。

金木以北の地域については如何でしょうか。この地域は端から端まで車で一時間以上かかります。五所川原市までと言えば更なる道程です。車の普及によって私たちの生活圏が広がっているのは事実ですが、医療の面からはどうでしょうか。自分の意志や好みで出掛ける買い物等とは違う面があると思われます。この地域には約四万人の人々が

生活しておられます。これらを考え併せますと、当地域には病院が必要と考えられます。ここに公立金木病院（以下当院）の存在理由があります。

当院は自治体病院です。一口に病院と言われるものも開設者の違いにより個人、医療法人、公的、国立そして自治体病院等に分けられます。当院は青森県に三十施設ある自治体病院のひとつです。

自治体病院とは他の病院と異なり、地域住民の要望に基づき住民の代表である自治体の議会の議決によって設立している病院の事であります。公立病院とは二つ以上の自治体が開設母体となっている病院の事です。当院の場合は金木町と中里町が開設母体です。

つまり自治体病院とは地域住民がつくった、住民のための病院と言う事になります。従って当院の任務は地域住民の要望にこたえた医療、福祉と保健を行う事であります。創立以来四十年、当院はこの一念で業務に携わって来たのですが、十分に任務を果たしているのか反省も多い事であります。

医療面について：当院では内科、外科、産婦人科、小児科、眼科、整形外科を標榜しておりますが、医師確保の困難さから一部診療科がパートとなっております。患者さんの多さからみても、ぜひ常勤医の欲しいところではす。パート医の診療日、非常に混雑する外来を見る毎に、何とか常勤医を、と患者さんには本當に申し訳ない気持ちを持っております。

新聞にも報じられたように青森県の、特に郡部の病院の医師不足は深刻な状態です。この問題の早急な解決は難しいのが事実ですが、ここに多くの患者さんがおられるのも事実です。粘り強く、関係方

面に医師派遣を要望していくつもりです。

新たな医師確保の問題は問題として今大事なものは、今ある勢力で最善を尽くす事です。この地域の第一線病院として皆さんの掛かり付け医として任務を全うしなければなりません。

極く専門的な病気や多くの人手や器材を要する疾患には当院では対処できない場合もあります。しかるべき病院と連携は出来ております。病院や医師が変わると不安を持たれる場合がありますが、関係する病院が一つとなつてその患者さんに当たつてるとご理解ください。当地域の診療所から当院へご紹介いただいた場合も同様です。

福祉・保健については：病院の業務は病院内にとどまりません。諸検診や学校・保育所での保健活動等、年間百回以上の業務があります。患者さんではない地域の方々も接する機会です。在宅医療というのもあります。介護保険制度が始まるとこれにも対処しなければなら

ません。行政機関や関係の方面と協議のうえ最善を目指します。

院内で行う検診の一つが人間ドックです。当院でも行っておりますが改良の余地があります。ただいまその作業中であります。このドックには両町からの援助をいただいております。上手にご利用ください。

当院は自治体病院としてこの地域に設立され、今後も任務を責務としてあり続ける所存であります。自治体病院は公営企業体でもあります。公共性と経済性を発揮しなければなりません。経済性が確立しなければ病院として成り立たない事態となります。

そのためにはより多くの患者さんにご利用いただくこと以外にありません。先に述べた事情ですべて満足のいく状態ではありませんが、誠意を持って病院に科せられた任務を遂行しようと職員一同年頭に当たり改めて肝に銘じているところであります。本年も皆さんの病院として皆さんとともに歩んでいきたいと思っております。

名誉町民
伊藤忠吉氏永眠



金木町名誉町民の伊藤忠吉氏（東京都在住）が一月十三日、天寿をまっとうしました。享年八十七歳。

伊藤氏は当町三軒町出身で東京都で公認会計士として長年にわたり活躍していました。その志を町発展のためにと福祉基金に二千万円、子供たちの学校教育にと六千万円、合計八千万円と多額な寄付をなされ、町政を陰で支えてくれました。

昨年六月に自宅で名誉町民章を授与した際、子供たちに「逆境にめげず自分で自分の道を切り開いてほしい」とメッセージを贈ってくれました。伊藤氏のご厚志に感謝し、安らかな眠りをお祈り申し上げます。

戸籍の窓

十二月届出分

おめでとう

沢田 雪乃（貴寛） 嘉瀬
佐藤 嘉真（嘉修） 喜良市
三上 聖平（央晃） 神原
小林 千夏（正樹） 金木

おしあわせに

おくやみ

岡田 麻未（一人） 喜良市
須崎 彰真（巧） 嘉瀬

古川 浩一（重則） 喜良市
荒木 厚美（忠志） 山形県
（洪谷知朗（順二）五所川原市
白川 こそ恵（義治） 金木
山中 良也（満政） 宮城県
伊丸岡里美（繁孝） 喜良市
森 正城（正男） 青森市
竹内 洋子（昭義） 金木

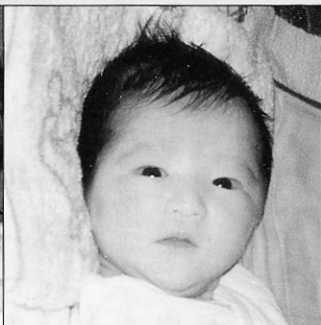
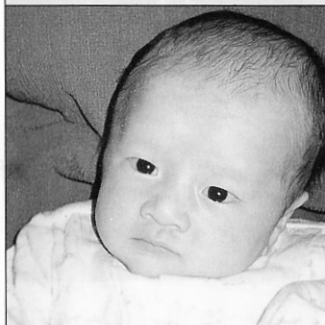
野戸谷 孫作（67才） 嘉瀬
白川 オリヨ（89才） 金木
山中 サヨ（82才） 嘉瀬
濱田 初江（59才） 嘉瀬
内海 宏昭（32才） 嘉瀬
工藤 ハギ（71才） 金木
松川 光男（77才） 嘉瀬
齊藤 義繼（77才） 嘉瀬
熊谷 三太郎（83才） 金木
白川 多七（84才） 金木
津島 多七（90才） 金木
溜井 多七（82才） 金木
白川 勝義（82才） 金木
川倉 勝義（82才） 金木

この欄は、金木町に住所を有している方々を掲載しています。掲載を希望しない方は町民課窓口へ届出の際申し出てください。

人口と世帯

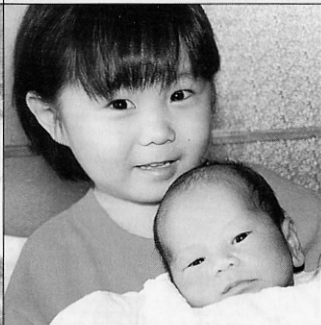
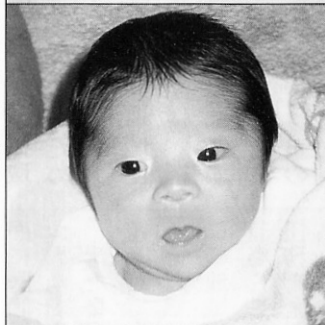
	12月末現在	前年同月比
男	5,844人	△ 38人
女	6,430人	△ 34人
計	12,274人	△ 72人
世帯数	3,943	11

はじめまして



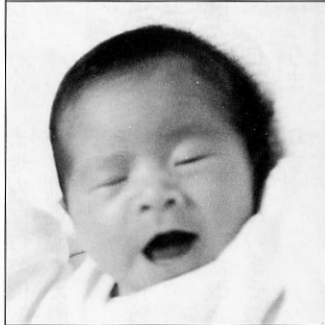
まさ真
よし嘉
世界的なスターになってほしい
（父 嘉修より）

の乃
ゆき雪
明るく素直な子に育ってほしい
（母 和美より）



なつ夏
ち千
心の優しい子になってほしい
（母 真紀より）

へい平
しょう聖
やさしい子に育ってほしい
（母 浩子より）



み未
あさ麻
健やかに育ってほしい
（母 ひとみより）